水 WEDNESDAY 働き方　木 THURSDAY 製造・調達　金 FRIDAY イノベーション

成電工業

生産現場のダイバーシティー Diversity

農福連携の野菜工場 根付く

地域に〝顔が見えるレタス〟

成長した苗を栽培パネルに移植する

成電工業（群馬県高崎市、滝沢啓社長）グループのNPO法人「ソーシャルハウス」は、就労継続支援B型事業所を運営し、レタスを生産している。2015年に高崎事業所を開設後、特別支援学校などの要望を受け、21年に藤岡事業所（同藤岡市）を、4月に本庄事業所（埼玉県本庄市）を開設した。3事業所で計52人（10月時点）の知的・精神障がい者（利用者）らが働く。〝農福連携型野菜工場〟が、地域に根付いている。

レタスは「種まき―植え替え（育苗・定植）―収穫―包装」の工程で生産する。この全工程に対応できる人もいれば、1工程しかできない人もいる。ただ、共通しているのは、一人ひとりが一生懸命に自分ができる作業をしていることだ。

高崎事業所は開設からこの間、改善を重ねてきた。当初はレタス生産のみだったが、これだけでは飽きてしまう。このため、利用者を2チームに分けて、午前と午後でレタス生産と自立訓練をローテーションするようにした。自立訓練は運動したり、社会生活に必要な能力を習得したりする。作業の裾野も広げ、ボールペンの芯入れやコーヒー豆の選別を追加した。

また、毎週火曜日にレタスの直売会を開いている。地域の住民とのコミュニケーションを通じ、販売スキルなどを磨く。住民の理解を得る場にもなっている。

そして23年春、パッケージを一新した。利用者の似顔絵をデザインし、2次元コード「QRコード」で活動を発信している。直売会で「これが私」などと、モチベーションアップにつながっている。似顔絵は定期的に変更する計画だ。

滝沢社長は「福祉であることを前面に打ち出した販売はしていなかったが、活動がストーリーとして伝われば、これも付加価値になる」とした上で、「我々はモノづくり企業ということもあり、品質や生産性に意識が向いていた。しかし、工業はモノだが、福祉は人。人が中心でなくてはならないとの気持ちが、より強くなった」と明かす。

現在、高崎事業所では1日当たり約350株を収穫し、スーパーマーケットのフレッセイ（前橋市）の約25店舗で販売している。滝沢社長は「しっかりと事業を継続し、地域貢献する」と言い切る。

（群馬支局長・藤巻裕謙）

パッケージを一新し、活動のストーリーが伝わるようにした

ポイント

野菜生産プラントは独自の発光ダイオード（LED）技術などを生かして製品化した。受注と合わせて量産も検討したが、NPO法人化し、地域になくてはならない存在になった。福祉法人や企業にノウハウも提供し、仲間を増やしている。

あす（金曜日）は『イノベーション』